

# 押小だより



令和4年2月7日  
さくら市立押上小学校  
令和3年度 第18号

## 多層指導モデル MIM の取り組み

さくら市では、この多層指導モデル MIM の実践研究に取り組んでおり、学習の基盤となる言語能力の育成に重点を置いて、各小学校で授業を行っております。本校においても、「豊かな表現力の育成」を学校課題にしており、「表現力」を育成するためには「読解力」を、さらに「読解力」をつける前段階として「読みの流暢性」を身に付けることが大切であると考えております。

令和4年度からは、下記のとおり市内の全小学校1・2年生を対象に授業時数特例校制度を申請し、言語能力の育成に重点を置いて取り組んでまいります。写真は、昨年末(12月21日)、さくら市学校教育課の担当指導主事等による MIM の授業訪問があった際の様子です。1, 2年生の授業を参観した指導主事は、これまでの成果と課題を分析し、今後の研究実践に生かしていきたいと話していました。

### 令和4年度から 市内全小学校1・2年生対象に 授業時数特例校制度を申請します!

#### 授業時数特例校制度とは

学校や地域の実態に照らして、より効果的な教育を実施するために、ある教科の時数を減らすかわりに、別の教科の内容を学ぶ時間にあててもよいという制度です。減らすことができる教科や減らす時数には決まりがあります。

#### 目的

さくら市では、令和3年度から小学校1・2年生を対象として本格的に多層指導モデル MIM を導入し、予備時数の中で実施してきました。令和4年度以降は、1・2年生の国語科の時数を増やし、学習の基盤となる言語能力の育成に重点を置き、効果的な教育を実践していきます。

#### MIMとは

…語句を正確に素早く読んだり、流暢に読んだりするための指導法です。

#### 授業時数の変更

小学校1・2年生は、国語科の時数を10時間増やし、生活科の時数を10時間減らします。1年間の総授業時数は変わりません。

#### 授業時数(1年生)のイメージ

生活科 (102)	国語科 (306)
生活科 (-10)	国語科 (+10)
生活科 (92)	国語科 (316)

#### 授業時数(2年生)のイメージ

生活科 (105)	国語科 (315)
生活科 (-10)	国語科 (+10)
生活科 (95)	国語科 (325)

#### 基本的な考え方

授業時数を減らす生活科は、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成していく重要な教科です。授業時数を減らすからといって、生活科を軽んじているわけではありません。ICT機器の活用により、効率的な授業実践を進め、授業時数を削減しても、教科の目標を達成できると考えています。



#### 問合せ先

さくら市教育委員会事務局学校教育課  
〒329-1492  
栃木県さくら市喜連川4420番地1  
TEL: 028-686-6620



さくら市教育委員会



## 全国学校給食週間 [1月24日~30日]

1月24日(月)~30日(日)は全国学校給食週間でした。この一週間は、改めて学校給食の意義や役割について考える機会となりました。

学校給食は、子どもたちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など、健康状態について懸念される点が多く見られる今日、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。



24日(月)には、喜連川のアサの豚を使用した「あさのメンチカツ」、26日(水)には、栃木県産のたまごを使用した「とちまるくん」の焼印付きの玉子焼き、同じく県産なめこを使用した「なめこ汁」、そしてJAしおのや提供のさくら市産のいちご「とちおとめ」をいただきました。また、27日(木)には、県産「米粉パン」、さくら市産「さとのそら」という小麦で作られた「氏家うどん」、そして栃木県の名産品かんぴょうを使用した「かんぴょうサラダ」をいただきました。さらに、28日(金)には、さくら市那珂川水系の「鮎の甘露煮」、県産の春菊を使用した「春菊のツナ和え」や喜連川産のアサの豚入りの「豚汁」も美味しくいただきました。自分たちの住んでいる地域で作られた安心・安全でおいしい食材を食べられることに感謝をしながらいただきました。



## 地区理科研究展覧会 5年小出蒼士さんの作品が県推薦に

今年度の地区理科研究展覧会は、新型コロナウイルス感染症対策のため一般公開(展示)及び発表会の部が中止となりました。本校からは、14人の実践研究が出品され、県推薦1点、優良賞4点、良賞9点を受賞しました。受賞者のみなさん、本当におめでとうございます。今後とも主体的に、そして様々な視点で研究を進めてほしいと思います。

また、その受賞者の中から、**5年 小出蒼士さんの「洗濯物の乾き方を調べよう」**が**県推薦**となりました。小出さんは、同じ時間、同じ場所で干してあるはずの洗濯物に乾き方の違いがあるのはなぜだろうと疑問をもち、実験を行いました。乾き方の違いが、素材や色の違いによるものだということを折れ線グラフでわかりやすくまとめました。**おめでとうございます!**

